

要 約

利根川水系田川で放流試験を実施した。放流から 28 日後に釣獲した試験魚の平均サイズは 11.7g で、日間成長率は 2.70% だった。試験魚のサイズは友釣りの対象としては小型だったが、先住魚がいたこと、河川工事に伴う日常的な濁水の発生が試験魚の成長に影響を与えた可能性がある。解禁後の漁獲日誌から、試験魚は主に放流地点から 3.5 km 以内の範囲に定着したと考えられる。多数の試験魚が放流地点直上の魚道を遡上したことも確認された。

那珂川水系の上流部及び中流部において解禁当初に釣獲された天然アユのふ化日を比較した。上流部で釣獲された個体はふ化時期の範囲が狭く、中流域では広がった。また、早期にふ化した個体は上流部ではほとんど確認されず、中流部に定着したと考えられる。釣獲魚の主群は上流部、中流部ともに 11 月中旬から下旬にかけてふ化した個体だったが、中流部で釣獲された個体が大型であり、中流部に定着した個体は成長が早いと考えられる。中流部は早期にふ化した個体が定着したこと、ふ化が同時期でもサイズが大型だったことから、アユの定着に適した条件がそろっていると考えられる。上流部で釣獲された個体の平均サイズは友釣りの対象として小型だったことから、解禁を遅らせることで天然資源を有効に利用できると考えられる。

なお、本課題の詳細については「令和 2 年度年度環境収容力推定手法開発事業報告書」において水産庁へ報告した。

（指導環境室）